

プロジェクト名

カンボジアにおける教育の質向上プロジェクト

- I. カンボジアにおける教員育成支援の実施
- II. カンボジアにおける教員アルムナイ活動支援の実施
- III. カンボジアにおける英語カリキュラム開発支援等の実施

プロジェクトの背景と目的

I. カンボジアにおける教員育成支援の実施

目的：

1. 教員研修生の生活水準が向上し、勉学に集中できるようなること。
2. 貧困農村地域の教員研修生が故郷に帰って優秀な教員となり、地方から優れた人材を輩出し続けるようになること。

背景：

1. プノンペン教員養成学校研修生（2年制）は、プノンペンのほか、コッコン、プレアビヒア、スタントレン、ラタナキリ、モンドルキリといった貧困農村地域の出身で、故郷の小学校、中学校の教員になるため、プノンペンで2年間の教員養成課程を学んでいる。
2. 教員研修生は、カンボジア王国政府から月額4万リエル（10米ドルに相当）を支給されているが、日常生活を維持するには十分な額ではない。
3. 研修生の多くは、食料確保の為、帰省することがあるが、勉学に影響を与えると共に、交通費負担も生じる。

II. カンボジアにおける教員アルムナイ活動支援の実施

目的：

1. プノンペン教員養成校同窓生（アルムナイ）に対するアップグレード研修、およびアルムナイによる研究発表会、教育活動を支援することで学校教員の技能向上を図る。
2. 学校とコミュニティーとの関係強化活動を支援することにより、民主的で持続可能な教育環境作りを目指す。

背景：

1. 教育省は2019年度より全国6か所の教員養成課程を、2年制から4年制へとカリキュラムを順次再編する予定としているが、システム再編にかかるカンボジア全土の教師の技能アップデートが追いついておらず、見通しも立っていない。
2. 2017年度の統計では、全国に1,699の中学校と486の高等学校が登録されており、小学校数(7,144)に対して不足していた中学・高校の数も、カンボジア政府が目指した「全ての町(commune)に中学校、すべての区(district)に高等学校」という、数の上での目標は達成された。その一方で、保護者の教育に対する理解は低く、学校を中退し、家庭の生活を支える労働力として駆り出されるケースが多い。小学校入学時には446,214人いる児童数が、中学入学時には245,158人、高校入学時には109,262人と右肩下がりに半減し、高校卒業者数においては、小学校入学者数の僅か10%未満の42,340人という状況で、高学年になるにつれ就学率の低下が顕著である(Education Indicators, 2016/2017)。また、Kizunaが実施した教師とコミュニティーを対象にした意識調査においては、学校とコミュニティー間における、教育環境や、取り組むべき課題、問題解決に向けた話し合いの機会が不十分であるという、学校とコミュニティー相互間の自覚が確認されており、学校とコミュニティー間の希薄な関係が、教育の質向上の妨げとなっている。

III. カンボジアにおける英語カリキュラム開発支援等の実施

目的：

カンボジア英語教育再編による、高校の新カリキュラムの作成と移行支援を行うことで、カンボジア青少年の学力と教育の質向上を図る

背景：

1. 1996年 MoEYS は、英国大使館の援助を受けて中学校英語教科書(English for Cambodia)を作成。カンボジアの生活習慣や文化を取り入れ、特別に編纂された教科書で、当時としては画期的な内容であったが、読み書き主体で、内容の難解さから、教師・

生徒共に十分に消化・吸収するに至っていない。一方、地方では、教師（取り分け英語教師）の絶対数不足と、教材（教科書・指導要領書）が十分に行き届いていないことから、都市部との教育格差が拡大しており、深刻な問題となっている。

2. かかる状況を考慮して、日本財団・KIZUNA は BBC の協力を得て、会話能力の向上を目的としたラジオ英語プログラム（EiF）を構築、2010 年よりプレアビヒア州・スタントレン州・プノンペン市の 15 のモデル校を対象に開始した。
3. 2012 年 4 月 MoEYS 大臣より、日本財団に対して、EiF 当初事業の有効性を認め、評価した上で、対象校を州全域に拡大して、EiF の有効性を再検証して欲しいとの要請があり、日本財団はこれを了承、対象校を 40 校に拡大した。
4. 2014 年 3 月 31 日付 MoEYS（教育大臣）より KIZUNA 宛レターにて、MoEYS は EiF をカンボジア国定英語カリキュラムに統合することに合意するが、EiF が Listening / Speaking の 2 スキルのみに特化していることから、Reading / Writing を加えた 4 スキルを満たす新国定中学英語教科書作成の要請（実質的に EiF 統合の条件）があった。
5. 2014 年 4 月 30 日、MoEYS（教育大臣）と日本財団 / KIZUNA との会談にて上記 MoEYS の要請を受諾した。
6. 2013 年 7 月に新大臣就任以降、MoEYS は、試験制度の見直しを含め、積極的な教育改革を推進している。教科書作成も従来、専門業者に丸投げしていたのを改め、教育省内部で専門家を育て自ら教科書作成したり、外部機関の援助を頼む等主体的に取り組んでいる。
7. MoEYS は、新教育大臣の EiF に対する理解と強力な支持により、2014 年 4 月末、EiF をカンボジア国定中学校英語カリキュラムに統合することに合意した。
8. MoEYS は、予算付与のタイミングと教員研修など準備期間の必要性から、EiF のカリキュラム導入開始時期を、移管 1 年後の 2017 年度とした。
9. EiF のカリキュラム導入合意時、MoEYS より KIZUNA に対し、教員研修面での協力要請があった。
10. KIZUNA により 5 年間実施してきた EiF 事業終了（2015 年 9 月末）に伴い、ラジオ放送、ワークショップ、インセンティブプログラム等は終了したが、MoEYS の要請により、新英語カリキュラム導入までの 1 年間、旧 EiF モデル校は引き続き授業を継続することになり、KIZUNA は、MoEYS の要請に従い旧 40 モデル校に対し、1 年間 EiF 教科書供与支援を行った。
11. KIZUNA は、MoEYS からの要請で、Reading/Writing に特化した新英語教科書を作成し、MoEYS に提出（G7：2015 年 1 月、G8：2015 年 11 月、G9：2016 年 9 月）。これにより、2015 年に移管された EiF 教材（Listening/Speaking に特化）と併せて、Listening/Speaking/Reading/Writing の 4 スキルが満たされたことにより、EiF と共に KIZUNA の中学英語教科書が MoEYS に移管され、新英語カリキュラムに導入されることになった。
12. KIZUNA は、Teacher Training Department からの教員研修要請（2016 年 1 月 28 日）を受け、RTTC 教官（7 名）と共に、全国の教員養成校（RTTC 6 校）教員に対し、新中学英語カリキュラムに関するオリエンテーション（2015 年 11 月）および、新英語教科書（G7）についての研修（2016 年 2 月）を実施。また Teacher Training Department 主催の、全州の中学英語教師（全中学校 1,783 校から各 1 名）を対象とする新カリキュラムオリエンテーション（第 1 回 5 州 / 全 25 州）へ、ナショナルトレーナーとして RTTC 教官（6 名）の派遣を行った（2017 年 4 月）。その後、MoEYS は、2020 年までに完了を目指し、ナショナルスタッフトレーナーが中心となって全 25 州でカリキュラムオリエンテーション※を継続している。
※オリエンテーション実施状況：2017 年 5 州終了、2018 年 4 月 1 州終了、2018 年 9 月 3 州実施計画中。以下今後の予定、2018 年末 2 州、2019 年 7 州、2020 年 7 州で全 25 州終了。
13. 2018 年 4 月、MoEYS は、日本財団と KIZUNA に対し、中学校英語に引き続き新高校英語カリキュラム（G10-12）の作成支援を要請。
14. MoEYS からの要請を受け、2019 年 1 月より新高校英語カリキュラムの作成支援を開始。2019 年 4 月には高校英語シラバス完成。年度末に G10（高校 1 年）教材が完成予定。

期待される成果	<p>I. <u>カンボジアにおける教員育成支援の実施</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 第2学年約101名の教員研修生は2年間の養成課程を修了後、コッコン、プレアビヒア、スタントレン、ラタナキリ、モンドルキリの5地方州及びプノンペン市で教師になる。 2. 月額15ドルの支援により、教員研修生は、プノンペンの教員養成学校に継続的に通い、勉学に集中できる。 3. 奨学金により、親の経済的負担が軽減される。 4. 海外研修を通じて、カンボジアとは異なる海外の教育システムと、その中で実施されている教育の取り組みを学び、その経験を地方教育の質向上に活用する。 <p>II. <u>カンボジアにおける教員アルムナイ活動支援の実施</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教員として活躍する、教員養成校同窓生（アルムナイ）を中心とした教育事業、研究発表会開催およびアップグレード研修を支援することで、教育分野におけるニーズ・課題の把握と、問題解決に向けた取り組みを進め、地域における教育環境および、教育の質が向上する。 2. 同窓生によるネットワークを強化することで、カンボジア全土の教員同士の交流・情報共有が進み、教育現場の質が向上する。 3. 学校とコミュニティとの関係が強化され、民主的で持続可能な教育環境が整う。 <p>II. <u>カンボジアにおける英語カリキュラム開発支援等の実施</u></p> <p><高校の新英語カリキュラム開発および移行支援></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. EiF のコンセプトと教授法が取り入れられた新英語カリキュラムが、カンボジア全国の高校に紹介され、実践的な英語教育が浸透する。 2. カンボジアの生活様式・文化を織り込んだ英語教育プログラム構築。 3. 地方と都市部の英語教育格差の是正に役立つ全地域型教育モデルの構築。 4. 従来の読み書き中心から、会話能力にも注力して、バランスのとれた実践的、効率的な総合的英語能力の習得。 5. 難解で不評を買っている英語教科書（English for Cambodia）に代わる、平易で親和性の高い教科書の出現。 6. 生徒の学習意欲増大による学力向上。 7. 教師の英語指導方法の改善。（教師中心型から生徒中心・参加型へ）
---------	--

プロジェクト概要

<p>I. <u>カンボジアにおける教員育成支援の実施</u> (前身から数えて 15 ヶ年目)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プノンペン小学校教員養成校 (Y2: 50 名) 中等教員養成校 (Y2: 51 名) に通う合計 101 名の教員研修生全員に 2020 年 1 月から 7 月までと 10 月から 12 月までの 10 ヶ月間一人当たり \$ 15/月の奨学金を支給。 2. 学業優秀研修生を対象に海外研修 (タイ) の実施 <ol style="list-style-type: none"> (1) 参加資格者: 中等教員養成学校及び初等教員養成学校の 2 年生 (約 12 名) (2) 選考方法: 成績優秀でリストアップされた候補者の中から、筆記試験と面接にて選抜 (3) 訪問期間: 1 週間 3. 小中等教員養成学校研修生全員に受講する科目の指導書及び教科書を配布する。 4. 奨学金および教員養成大学への新規案件に向けた調査を実施する。 5. 全国公立学校のモデル校に指定されている Pouk 高校内に新設された工業科コースの学生たちを対象に、パイリン州経済特区内にある日系工場の見学を実施し、国内で深刻化している産業人材不足問題に対応し、育成支援に向けたニーズ調査を実施する。 6. 少数民族地域に赴任予定の学生たちが在学中に、少数民族の文化と言語を理解するための研修生同士が自習できる課外活動を支援する。 <p>II. <u>カンボジアにおける教員アルムナイ活動支援の実施</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教員として活躍するプノンペン教員養成校アルムナイ 2,332 名 (2008-2019) に呼びかけ、アルムナイ中学校英語教員による、小学校教員に対する英語研修の事例、芸術教員アルムナイ達による教員養成校研修生を対象としたクラブ活動実施事例、アルムナイ校長を対象としたリーダーシッププログラム、少数民族地域の言語の壁を払拭するために開発したカルタゲーム等を、発表する学術発表会の開催。また、新規学校保健事業の紹介や、授業を活性化させるレクリエーションゲームについてのアップグレード研修、及び手作り教材に関するコンテストを実施する。 2. モチベーションの高い地方の若手アルムナイ校長を対象にリーダーシップ研修プログラムを実施するとともに、国内、海外 (ミャンマー、日本) のモデル校から学校運営についての事例を学ぶ。 3. モチベーションの高い英語科、芸術科、クメール語科、その他のアルムナイ教員と共に、都市部と地方の教育環境格差撤廃を目指し、学習の補助教材やレクリエーション、ゲームを開発し、普及活動を行う。 4. 国内で失われつつある伝統音楽および舞踊を次世代に残すため、モチベーションの高い芸術科アルムナイと共に、教員養成校研修生を対象とした芸術クラブ活動を行う。 5. アルムナイおよび外部から、手作り教材の事例を収集し、学校の授業に活用できるテキストを制作する。 <p>II. <u>カンボジアにおける英語カリキュラム開発支援等の実施</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高校新カリキュラム制作 5 年計画の 3 年目、途上国における英語教科書開発の専門家 Adrian Tennant 氏 (Transform ELT 社) の指導の下、教育省高校教員養成学校 National Institute of Education (NIE)、およびカリキュラム開発局を含む英語カリキュラム委員会と共に G11 と G12 (高校 2 年と 3 年) の教科書および教員用指導書の作成。また高校教員養成校 (NIE) の英語教官が、新教科書を使い高校教師の養成ができるよう、2019 年度完成の G10 英語教科書を元に教員養成用教材の製作とオリエンテーションを実施する。

活動の周知	<u>I. カンボジアにおける教員育成支援の実施</u>		
	1. 教員養成学校での事業説明、地方の卒業生配属先学校訪問により本事業の周知をはかる。 2. HPを通じて、教育関係者、潜在的支援者、メディア等に対して本事業の周知をはかる。		
	<u>II. カンボジアにおける教員アルムナイ活動支援の実施</u>		
	1. 各地でのワークショップおよび開催イベントを通じ、本事業の周知をはかる。 2. HPを通じて、教育関係者、潜在的支援者、メディア等に対して本事業の周知をはかる。		
実施地	<u>II. カンボジアにおける英語カリキュラム開発支援等の実施</u>		
	1. 国際教育学会での発表を通じて、教育関係者、潜在的支援者に本事業の周知をはかる。 2. Adrian Tennant氏を通じて、カンボジアでの英語教育事業を欧米メディアに紹介。		
	カンボジア 25 都市		
	プロジェクト予算 (単年)	米ドル	プロジェクト実施機関 開始： 2020 年 1 月 1 日
日本財団への申請額	742,000 米ドル	589,500 米ドル	終了： 2020 年 12 月 31 日
その他助成	前年度繰越金 152,500 米ドル		助成金支払い希望日： 2019 年 12 月：294,750 米ドル 2020 年 6 月：294,750 米ドル

プロジェクトの画期的・独創的な側面	<u>I. カンボジアにおける教員育成支援の実施</u>	
	1. 新たな初等中等教育の改善に繋がる活動に発展する。 2. KIZUNA を主体として、卒業生（各出身地の教師）とのネットワークが確立される。 3. 研修生と KIZUNA の間に信頼関係が築かれ、今後の KIZUNA の他の活動を効果的に実施できるようになる。	
	<u>II. カンボジアにおける教員アルムナイ活動支援の実施</u>	
	1. 元奨学生の教員（アルムナイ）達が、教育現場の経験を活かし、教育の質向上と環境整備に向けた研修、および独自で発案する教育プログラムを実施する。 2. カンボジアでは初めてとなる教員によるネットワーク、および学校とコミュニティーによる学校開発モデルの構築。	
プロジェクトから期待される効果・長期的影響	<u>III. カンボジアにおける英語カリキュラム開発支援等の実施</u>	
	1. 旧来の教師中心型の教授法から、生徒中心・生徒参加型の教授法へ転換される。 2. 本来、補助教材でしかない Eif のコンセプトが、主要教材である国定教科書に反映される。 3. 日本財団助成による KIZUNA 制作の新英語カリキュラムが、中学高校の国定教科書としてカンボジア全土で使われる。	
	<u>I. カンボジアにおける教員育成支援の実施</u>	
	1. 教員養成校学校にて安定的に 2 年間の教職課程を修了できるようになり、カンボジアにおける教育の質の向上につながる。 2. 養成期間中勉学に専念することが可能となり、質の高い教員の育成が望める。	
プロジェクトから期待される効果・長期的影響	<u>II. カンボジアにおける教員アルムナイ活動支援の実施</u>	
	1. アルムナイ教員達のネットワーク強化で、教員同士の交流が生まれ、課題共有や問題解決など、教育の質向上に向けた機運が高まる。 2. アルムナイ教員同窓生によるネットワークおよび学校とコミュニティーとの関係強化のモデルを構築することにより、カンボジア全土の教員同士の交流が促され、現場の教師達による自発的な活動が全国に生まれるためのモデル事業となる。	
	<u>III. カンボジアにおける英語カリキュラム開発支援等の実施</u>	
	1. 旧来の教師中心型の教授法から、生徒中心・生徒参加型の教授法への転換。 2. カンボジアの生活様式・文化を織り込んだ英語教育プログラム構築。 3. 地方と都市部の英語教育格差の是正に役立つ全地域型教育モデルの構築。	

	4. 従来の読み書き中心から、聞く・話す の会話能力にも注力して、バランスのとれた実践的、効率的な総合的英語能力の習得。
評価方法・検証手段	<p>評価方法、客観的に証明可能な指標、プロジェクトの成功を測るためのデータなど、プロジェクトの成果や影響をどのように評価するかを述べよ。</p> <p>I. <u>カンボジアにおける教員育成支援の実施</u></p> <p>1. 教員養成学校を卒業し、教師となった研修生を訪問し、インタビュー等を通して、事業効果を検証する。</p> <p>2. 教員養成学校研修生を対象に事業効果を検証する為のアンケート調査を実施する。</p> <p>3. 研修生及び養成学校の教官を対象にインタビューを行い、事業効果を検証する。</p> <p>II. <u>カンボジアにおける教員アルムナイ活動支援の実施</u></p> <p>1. アルムナイのいる学校を訪問し、インタビュー等を通して、事業効果を検証する。</p> <p>2. アルムナイ、地域住民を対象に事業効果を検証する為のアンケート調査を実施する。</p> <p>III. <u>カンボジアにおける英語カリキュラム開発支援等の実施</u></p> <p>1. 作成した高校英語シラバスおよび新高校英語カリキュラムを地方の高校英語教師に見てもらい、地方における英語授業レベルに対応しているかを検証する。</p>

複数年プロジェクトに関する情報のみ：プロジェクト実施期間は5年。

プロジェクト実施期間	2019年1月1日～2023年12月31日	
プロジェクト予算総額	日本円/米ドル/ユーロ 3,374,000米ドル	日本財団への助成申請額

実施スケジュール

プロジェクト活動	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
プロジェクト期間	2019年1月1日 ～2019年12月31日	2020年1月1日 ～2020年12月31日	2021年1月1日 ～2021年12月31日	2022年1月1日 ～2022年12月31日	2023年1月1日 ～2023年12月31日
プロジェクト年間予算	867,600米ドル	742,000米ドル	594,800米ドル	584,800米ドル	584,800米ドル
プロジェクト内容	教員養成 ・教員養成校への奨学金、研修提供 アラムナイ アップグレード研修、教育事業 英語 ・高校英語教科書作成	教員養成 ・教員養成校への奨学金、研修提供 アラムナイ アップグレード研修、教育事業 英語 ・高校英語教科書作成 ・高校教員養成校への研修実施	教員養成 ・教員養成校への奨学金、研修提供 アラムナイ アップグレード研修、教育事業	教員養成 ・教員養成校への奨学金、研修提供 アラムナイ アップグレード研修、教育事業	教員養成 ・教員養成校への奨学金、研修提供 アラムナイ アップグレード研修、教育事業
プロジェクト予算	米ドル 3,394,000米ドル	日本財団への助成申請額	米ドル 3,374,000米ドル		
実施地	カンボジア 26 都市				

プロジェクト名	IV. カンボジアにおける学校保健教育の普及プロジェクト
プロジェクトの背景と目的	<p>プロジェクトが取り組む問題や課題、さらにプロジェクトの目的およびゴールを簡潔に述べよ。</p> <p>目的：</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 実践的な学校保健の教育モデルが構築されること。 4. 元日本財団奨学金受給者であるアルムナイ教員たちが中心となり、保健セクターや地域住民と協力し、持続可能な学校保健システムの運営ができるようになること。 <p>背景：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 青少年の健全な心身の成長に欠かせない「学校保健教科」であるが、カンボジアにおいては、教育青年スポーツ省（MoEYS）内の体育スポーツ総局が作成した、2007年から2008年に製作された小学校保健体育指導要領と保健体育指導書の中に組み込まれた（JICA草の根事業）。しかし、省内における保健人材の不足から、体育スポーツの部分のみに実施は限定され、保健部分が欠落されたまま、小中学校、および教員養成の現場で使用されている。 2. MoEYSでは、2014年に始まった教育改革の一環として、保健教科を体育とは独立した1科目としてカリキュラムとし、小学校1年から高校3年まで、週に1時間の学校保健科授業の実施導入を決定。それまで教育現場への保健啓蒙活動を主に担当していた学校保健局が、シラバス、カリキュラムおよび教科書の作成を担当している。 3. 学校保健教育に関する経験と専門知識を持たない学校保健局は、カンボジア国内で活動する、医療系 NGO に各専門分野についてのシラバス、および教科書の製作を委託しているが教材の完成は難航している。 4. 教員養成学校では、東京学芸大学の支援で、小学校および中学校のカリキュラムに対応できる教員を指導する保健専門教官の養成を計画している（2020年開始予定）が、保健教育を受けた教員が学校現場に派遣されるまでには、今後最低20年以上の時間を要する。 5. 一方、キズナが、2008年より日本財団助成事業として実施してきたプノンペン教員養成校研修生への奨学金給付により、現在2,332名の卒業生（アルムナイ）が地方を中心に教員として活躍している。2016年10月には、その現場で活躍するアルムナイによる教育の質と学校環境の向上にむけた活動支援が開始された。全アルムナイの3割を超す750名が若手教員として学校に勤務する、カンボジア南西部のコッコン州では、8つの中学校で、アルムナイが中心となり、地域住民と協力し、学校の緑化や環境美化の活動を開始している。コッコン州は小学校116校（生徒数17,327名）、中等学校28校（生徒数：7,070名）があり、全校にアルムナイが勤務することが確認されている。 6. また、キズナは English is Fun という非英語専門教員でも英語を教え、教えることを通し、英語を学べる教材を開発した経験があり、他科目でこの知識を活用できることが考えられる。
期待される成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 政府の National Policy On School Health に沿った保健運営が、学校で実施される。 2. 製作する非保健専門教員でも使用できる保健教材で、学校保健科の授業が実施される。 3. 学校保健室と近隣の医療セクターとの連携が構築される。 4. 全生徒の身体および体力データの収集解析のためのシステムが構築される。 5. 学校ハーブ園システムの導入により持続可能な保健教育体制が構築される。

プロジェクト概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 非保健専門教員用学校保健教材キットの作成 <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学1年生用（2020年度）。10回分/年（8ヶ月間） ・ 生徒用テキスト教材（紙芝居、アニメーション、カードゲーム）と教員用指導教材 ・ 教員養成大学の保健教官研修生による研修実施 2. 中学校におけるパイロット授業実施(2010年11月から) <ul style="list-style-type: none"> ・ パイロット中学8校(アラムナイ勤務校) 裨益者：中学生約800名 ・ 身体測定（年3回）と体力測定（年1回）の実施とデータ解析 3. 保健室運営 <ul style="list-style-type: none"> ・ パイロット校の図書室や職員室の一部を活用 ・ 保健室備品（簡易ベッド、身体・体力測定器）の提供 ・ 保健室担当者はアラムナイ教員が担う ・ 学校長・保健室担当教師・地域住民・保健所・生徒による保健委員会を設置 ・ 保健委員会への研修実施 4. 学校ハーブ菜園システムの導入 <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒が育成したハーブを提携企業が原材料として購入するシステム。 ・ 収益は保健室運営資金に充てる(100-300ドル/年) ・ ハーブ菜園の設置と、換金作物の育成から販売までの講習会実施 ・ 地域のニーズに併せた地元の有用植物で薬草見本園を設置 ・ 伝統医療師による薬草レクチャーの開催
----------	---

活動の周知	<ol style="list-style-type: none"> 1. ホームページや冊子で教育関係者、潜在的支援者、メディア等に本事業の周知を図る。 2. 定期開催の教員アラムナイ会議で事業の進捗と成果を共有する。 	
実施地	カンボジアコッコ州	
プロジェクト予算 (単年)	米ドル 225,000米ドル	プロジェクト実施機関 開始： 2020年1月1日
日本財団への申請額	225,000米ドル	終了： 2020年12月31日
その他助成	前年度繰越金 0米ドル	助成金支払い希望日： 2019年12月：112,500米ドル 2020年6月：112,500米ドル

プロジェクトの画期的・独創的な側面	<ol style="list-style-type: none"> 1. 元日本財団奨学生のアルムナイ教員達を中心となり、地域住民や保健セクターと協力し、実践的な保健教育システムを構築する。 2. 非保健専門教員たちでも授業実施が可能な保健教材の開発。 3. 保健を専門としないアルムナイ教員によって、これまでカンボジアでは普及していない保健室が管理運営される。 4. 学校ハーブ園の運営により、地域の有用資源の知識を得ると共に、収益により持続可能な保健システムの維持が可能になる。
-------------------	--

プロジェクトから期待される効果・長期的影響	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校における保健教育が実施されるようになり、国力増進の要である青少年の心身育成の重要性を、カンボジア政府が理解する。 2. 学校保健室と医療セクターの連携が強化され、学校現場におけるリスクマネジメントが強化される。 3. 児童・生徒の身体および体力データが掌握されることにより、保健体育計画が改善される。 4. ハーブ園運営で得られる収入で、持続可能な学校保健システムが運営される。
-----------------------	---

評価方法・検証手段	評価方法、客観的に証明可能な指標、プロジェクトの成功を測るためのデータなど、プロジェクトの成果や影響をどのように評価するかを述べよ。
	2. モデル学校を訪問し、教師、保護者、生徒へのインタビュー等を通して、事業効果を検証する。
	3. モデル学校を訪問し、教師、保護者、生徒を対象に事業効果を検証する為のアンケート調査を実施する。
	4. 事業研修に関わる、教官実習生、教育省学校保健局、およびNGO 団体職員を対象にインタビューを行い、事業効果を検証する。

複数年プロジェクトに関する情報のみ：プロジェクト実施期間は6年。

プロジェクト実施期間	2020年1月1日～2025年12月31日
プロジェクト予算総額	日本円/米ドル/ユーロ 1,350,000米ドル
	日本財団への助成申請額

実施スケジュール

プロジェクト活動	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目
プロジェクト期間	2020年 1月1日 ～2020年 12月31日	2021年 1月1日 ～2021年 12月31日	2022年 1月1日 ～2022年 12月31日	2023年 1月1日 ～2023年 12月31日	2024年 1月1日 ～2024年 12月31日	2025年 1月1日 ～2025年 12月31日
プロジェクト年間 予算	225,000米ドル	225,000米ドル	225,000米ドル	225,000米ドル	225,000米ドル	225,000米ドル
プロジェクト内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健教材開発と授業実施 ・保健室開設 ・学校ハーブ園 (コッココン州中学8校) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健教材開発と授業実施 ・保健室開設 ・学校ハーブ園 (コッココン州中学8校+小学14校) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健教材開発と授業実施 ・保健室開設 ・学校ハーブ園 (コッココン州中学28校、中学28校/全校) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健教材開発と授業実施 ・保健室開設 ・学校ハーブ園 (コッココン州中学28校、中学28校/全校) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健教材開発と授業実施 ・保健室開設 ・学校ハーブ園 (プレアビヒア州中学14校、小学10校) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健教材開発と授業実施 ・保健室開設 ・学校ハーブ園 (プレアビヒア州中学14校、小学10校)
	コアモデル校づくり	コアモデル校からのクラスターモデル校への指導	マニュアル化。拡散期	マニュアル化。拡散期	他州での実証トライアル	他州での実証トライアル。政府への移譲
プロジェクト予算	米ドル 1,350,000米ドル	日本財団への助成申請額	米ドル 1,350,000米ドル			
実施地	カンボジア コッココン州、プレアビヒア州					